

「IFLA Trend Report 2021 Update」の「20のトレンド」（試訳）

1. 厳しい時代が、前途に!

- ・COVIDからの回復が遅いと、すべての公共支出が圧迫され、図書館はアドボカシー活動を強化する必要がある。

2. バーチャルの定着

- ・人々は、図書館サービスに、リモートでアクセスすることのほうを好ましく思い続け、スペースや物理的な提供物の価値に疑問を抱いている。

3. 物理的なスペースの復活

- ・人々は、有意義な交流と討論の機会を提供するスペースの価値を再発見する。

4. ソフトスキルの上昇

- ・テクノロジーが急速に発展する時代に、図書館員が改革し、予測不可能な状況に適応できることがますます重要となってきている。

5. 多様性の重視

- ・差別の存在とその影響に対する認識の高まりは、私たちのコレクション、サービス、実践の抜本的な改革をもたらす。

6. 環境問題

- ・気候変動は、図書館と図書館がサービスを提供するコミュニティに新たな脅威をもたらし、災害を回避するために抜本的な対応を強いる。

7. モバイル人口

- ・人々が、より多く、自由に移動しながら行動するようになるにつれて、「地域の」図書館という概念はあまり意味がなくなり、境界を越えた共同サービスを提供する必要性が高まっている。

8. せっかちな利用者

- ・図書館利用者は、特に若い世代では、最新のテクノロジーとサービスを期待しており、もし彼らがそれらをそこで見つけることができない場合は、図書館から離れてしまうリスクがある。

9. アナログのバックラッシュ

- ・休みなく続くソーシャルメディア接続のストレスによってトラウマを負っている新世代の人びとは、本を含む物理的な資源を、避難場所として再発見している。

10. スケールの問題

- ・完全で最新のサービスを提供するための経費は、サービスを提供することができるのは大規模な機関のみであり、小規模な機関は取り残されることを意味している。

11. データ支配

- ・データの新しい利用と応用は、私たちの経済的および社会的な生活を劇的に変化させ、それに対処するためにデータを使いこなす能力を身につけることが、人びとにとってますます不可欠となっている。

12. 検索の変容

- ・人工知能は、私たちが情報を見つける方法に革命をもたらし、よりの確な結果をユーザーに提供することを可能とする。

13. 極端な状況へのレース

- ・政治的な討論はより二極化し、政治と社会の両方でコンセンサスを見つけることがより困難になり、共有機関の主張を弱体化させる。

14. 生涯学習者

- ・もはや一生の仕事というものはなく、ますます多くの人々が生涯を通じて再訓練を受ける必要がある。図書館はそのための学習活動を促進する。

15. 単一の、グローバルなコレクション

- ・資源のデジタル化と複数の機関を横断する作業の可能性により、地域的なコレクションについて話すことはもはやあまり実質的な意味がなくなり、むしろ全体的な資源へのアクセスが重要となる。

16. 知識の民営化

- ・技術的なツールの使用と、著作権のゆるやかな改革は、民間の関係者が、粒度の細かなレベルでも、許諾や支払いを義務づけて、情報を制限したり制御したりすることが可能となることを意味する。

17. 資格が重要

- ・情報環境の複雑さが増大するにつれて、図書館職員が高いレベルの教育のもたらす利益を受ける必要も高まっている。

18. 貴重な情報リテラシー

- ・政府やそれに準ずる組織は、誤った情報の増大への長期的な対応策として、情報リテラシーの重要性を十分に認識している。

19. 「オープン」は、図書館の USP に挑戦する

- ・自由に利用できる科学分野の情報の割合が高まる中で、図書館は、その役割を適合させるか、あるいは、そのユニークなセールスポイント (USP) と妥当性を失ってしまうか、を強いられている。

20. 深まる不平等

- ・技術が、それにアクセスする人に新たな可能性を生み出すとき、アクセスできる人とアクセスできない人との格差が拡大し、対策が講じられなければ、人口の大部分を貧困に閉じ込めるリスクがある。